



園だより

～きづき～

キ3園 第43号

2025年8月号

キッドワールドサード保育園

園長 是永 妃富

酷暑と言っているほどの暑さが続いています。夏空が広がり、その中で夏ならではの水遊びやプール遊びを楽しんでいる子どもたちです。夏バテをしないように、食事・休息は十分とるようにして、元気にこの夏を乗り越えたいと思います。

さて、今月はお盆を迎えます。親戚の方や祖父母に会う機会もあり、子どもたちも楽しみにしているのではないのでしょうか。色々なところに出かける機会が多くなると危険なことにも出会うことがありますので事故や怪我のないように、お過ごしください。体調管理に気をつけて行きましょう。



8日(金) 身体計測

19日(火)避難訓練

21日(木)健康診断

9/13(土) おまつりごっこ

お弁当日は **8/16(金)**です

お弁当と食具を持たせてください。

おやつと飲み物は園で準備いたします。



1・2歳児さんはプール遊び

0歳さんは給食風景です。

皆、園で元気に過ごしています。



・9月13日(土)はお祭りごっこです。詳細のお手紙をお渡しします。

#### 日程変更について

・10月18日(土)に運動会ごっこを予定していましたが、近隣の小学校、キッドワールドこども園との行事の兼ね合いがありましてサード保育園の運動会ごっこを11月15日(土)に変更させていただきます。ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願い致します。(雨天決行)

・保護者の方の1日体験を受け入れます。まずは、担任にご相談ください。

・台風の来る季節です。直撃等になりますと休園になる場合があります。この場合ハグノートでのお知らせになります。確認をお願い致します。

#### 7月子どもたちの様子・



初日のプール遊びの日は、小さな泣き声が続いていました。2日目になると笑い声が聞こえて「楽しかったあ～」とか「まだ遊びたい～」等の声が聞かれ水遊びやプールの楽しさを味わっています。先生たちもいろいろな遊びを工夫して、春雨遊びをしたり、しそを入れた水遊びをしたりして、アイデアもりだくさんで遊んでいます。少し日焼けしたかわいい子ども達です。



## キッドエッセイ 70

総合園長 牧野桂一先生

今年度も牧野先生が、子どもの心理についてエッセイを書いてくれます。  
共感したり、発見があったりします。読まれてください。

キッドエッセイ 69

## キッドエッセイ 70

### 子どもの噛みつきについて



牧野 桂一先生

家で子どもが急に周りの子どもを噛むようになって困っているという相談を受けました。噛みつきについては、園の生活でも悩んでいる先生が時々いますので、この機会に子どもの噛みつきの原因や噛みつきへの対処の仕方について考えてみたいと思います。

まず始めに、子どもの噛みつきが起きる原因について考えてみます。噛みつきの一番の原因は、子どもの身体的な発達との関係です。1歳から2歳になると手よりも口の方が早く発達してきます。そのため、自分の意思を伝えたいときに、とっさに噛みついてしまうのです。

二番目の原因は、歯茎がかゆくなることです。歯が生えてくると歯茎がムズムズと痒くなり、何かものを噛んでかゆさを紛らわせようとするのです。

三番目の原因は、まだ自分の思いを言葉ではうまく言えませんが、言葉を使わずに自分の意思を伝えようと噛みついてしまうのです。

四番目の原因は、他人との関わり方が、まだよく分からないということです。子どもは挨拶や楽しい気持ちの表現として噛みついてしまうのです。また、興奮して戯れるような気持ちで噛みつくようなこともあります。

五番目の原因は、甘えたい気持ちの表現です。お父さんお母さんなど身近な親しい人に噛みついてしまう場合は、このことが原因であると考えられます。特に、お父さんお母さんが仕事や家事で忙しいとかまってもらいたくて噛むようなこともあります。

六番目の原因は、気持ちが不安定になって噛みついてしまうことがあります。噛みつきが見られるようになった時は、体調や家庭環境、園の環境にも目を向けると要因に気づくことがあります。

七番目の原因は、噛みつきを相手への攻撃手段として使ってしまうことです。子ども同士の喧嘩の中では、相手を叩いたり蹴ったりするとともに噛みつきくことも攻撃手段として出てきてしまうのです。成長の中で自然にでてくる子どもの噛みつきは、主に3歳までですが、攻撃による噛みつきは3歳以降でも見られることがあります。

次に子どもの噛みつきへの予防策を考えていきます。一番目は、噛んでも大丈夫な玩具を与えることで、この方法は歯茎のかゆさが原因の噛みつきにはとても効果があります。歯固めなどを使い噛んでも安全な玩具を与えると噛むことがとても良い遊びになります。

二番目は、子どもからできるだけ目を離さないようにすることです。一時も目を離さず見ていることは難しいかも知れませんが、できるだけ子どもたちから目を離さないようにします。そうすると子どもの噛みつきを未然に防ぐことができるようになります。子どもが噛みつきそうな時には話しかけるなどして気をそらしてあげます。また日頃から子どもたちの様子を観察することで、どのような時に噛みつきが起きるのかということが子どもの表情や行動から推測できるようになり、なぜ噛みついてしまうのかという原因も見えてきます。

三番目は、子どもたちの密集を避けることです。子どもたちの遊ぶ空間が十分でないと、子ども同士の体がぶつかったり合ったり玩具や遊具を奪い合ったりして満足のいく遊びができず、不安定になりやすくなります。子どもたちの人数に合わせた場所と空間を用意してあげると子どもたちが思いっきり遊べるようになります。噛みつきは起こらなくなります。

四番目は、子どもたちが不安定にならないように、コミュニケーションや子どもとの触れ合いを増やすことです。特に、弟や妹が生まれたときは、子どもがお母さんを取られたような寂しさを感じやすくなりますので、意識的に子どもと触れ合う時間を取る必要があります。コミュニケーションは量より質の方が大切ですので忙しい日々の中での子どもにしっかりと愛情を伝えるようにします。

最後に子どもの噛みつきへの対処について考えていきます。まず始めにすべきことは怪我の手当

です。噛んだ場所を洗い流し、患部を冷やすことで、炎症反応を抑えます。冷やす時は氷嚢や氷と水を入れたビニール袋、保冷剤などを必ずタオルにくるんで使います。子どもはじっとしているのが苦手ですが、最低でも5分間は冷やすようにします。できれば皮膚の感覚がなくなるくらいまで冷やすのが良いようです。出血が多かったり傷が深かったりする場合は、必ず医療機関を受診するようにしてください。

二番目には、噛んでしまった子に対してはすぐに叱るのではなく、一度その子の気持ちに寄り添ってあげることが大切です。子どもの気持ちが落ち着くのを待ってから、なぜ噛んでしまったのか聞いたり、噛まれた子は痛いんだということを伝えたりします。ここではそのタイミングが大切です。子どもの対応を後回しにしてはいけません。後からでは、子どもはいわれていることが何のことだかわからなくなってしまうからです。

三番目には、噛んでしまった子だけでなく、噛まれた子への声掛けも忘れないようにします。まずは噛んでしまった子と同じように、「急に噛まれて痛い」という気持ちに寄り添いながら「どこを噛まれてしまったのか」ということを確認する必要があります。この時、噛んでしまった子どものお詫びの気持ちも優しく代弁してあげることが大切です。

今回は、子どもの噛みつきの原因や予防法、さらに対処法について考えてきました。ここでは、子どもの噛みつきを考えることによってどのようにしたら改善する方法が見えてきました。それとともに、子どもの噛みつきを防ぐために子どもたち一人ひとりに合わせた対策も考えることができました。ここでの提案が子どもの噛みつきで困っている皆さん方の参考になることを願っています。



「あっと、思ったときはかみつきのあった。」何度もそういう場面に遭遇したことがあります。噛まれた子どもも、噛んだ子どもも寄り添いが大切。甘えたい気持ちのあらわですね。私たち大人が見守って行きましょう。